

## 弓削商船高等専門学校

筒井壽博(弓削商船高等専門学校)

本校は3学科編成の小規模高専ですが、その創立は、古く1901年(明治34年)の弓削船員学校に遡り、2021年には120周年を迎えようとする歴史と伝統を持ちます。

ここでは、以下、簡単に本校の特色などを紹介させていただきます。

## 1. 本校の所在

本校は瀬戸内海のほぼ中央に位置する愛媛県越智郡上島町(図1)にある。広島側三原港からは因島の土生(はぶ)港で乗り継ぎ、あるいは四国側今治港からは直接弓削港に高速船が連絡している。尾道側から車でお越しの場合は西瀬戸自動車道(通称、しまなみ海道)の因島北ICで降り、また、今治側からお越しの場合は因島南ICで降りると最短。そこから南南東に約10kmの地点まで下る(図2)。因島の土生(はぶ)港と隣の生名(いきな)島の立石港はフェリーで接続されている。生名島と佐島(さしま)、佐島と弓削島とがそれぞれ大架橋で結ばれているにも関わらず「離島」と呼ばれる由縁である(図2)。

この大架橋で結ばれたコースは「ゆめしま海道サイクリング」として今や世界規模にその名が轟く「しまなみ海道サイクリング」に参加するライダー達にも通なオプションを提供しているようである。このサイクリングコースの最終端が本校の位置する弓削島(図3)である。



図1 愛媛県越智郡上島町



図3 ゆめしま海道(弓削商船高等専門学校 学校案内 2018より)



図2 弓削商船高専の周辺

## 2. 学校の概要

2018年度（平成30年度）の教職員数は99名である。学生数は664名であり、図4に示すように学生は全国から集っているもののやはり地元愛媛県と隣の広島県の出身者が多い。また、海外からは、モンゴル、マレーシア、インドネシア、ラオス、タイからの留学生を受け入れている。

商船学科の卒業生の進路は、80%を超える学生が外航各社、内航各社の船員として巣立ち、船員の輩出は国内5商船高専内でもトップレベルと言われている。特に外航船員を輩出することをミッションとしており、二級海技士や一級海技士の課目受験の指導が熱心に行われている。

電子機械工学科や情報工学科からは、コンピュータ産業、電気・電子機器産業、ソフトウェア、情報・通信産業、流通・輸送関連産業と幅広い分野に人材を輩出している。

専攻科は10月入学の海上輸送システム

専攻と4月入学の生産システム専攻の2つのコースがあり、前者は船舶運行システム管理技術をベースに海洋環境保全技術を踏まえた海事関連技術分野にも対応できる多様な技術を身につけた技術者の育成を目指している。後者は「ものづくり」をさらに発展させローテクからハイテクまで柔軟な応用力を身につけた「高知能・高精度化されたものづくり」に対応できる技術者の育成を目標としている。

このような体制下、3学科の求人倍率は8倍を超えており、ここ数年来、卒業生の就職率は100%を維持しており、大手上場企業から地元の中小企業まで個々の学生の志望に叶う広い選択肢が用意されている。

## 3. 学生生活

1年生と2年生は原則として全寮制、3年生以上は許可入寮制をとっており、多くの学生は弓削島内の学寮「白砂寮」が生活の拠点となっている。本校の所在する上島町は日本で最も美しい村」連合に加盟しており、海からの眺めも必見ものであるが、学生はこのような恵まれた環境の中でのびのびとした学生生活を謳歌している。

本校の学生は原則全員が部活動に参加することが奨励されており、ヨット部、カッター部などのマリンスポーツのほか、柔道、剣道、弓道などの武道、ラグビー、サッカー、硬式野球などの球技と体育会は盛んである。文化部では、ロボコン部、プロコン部の活動が盛んで

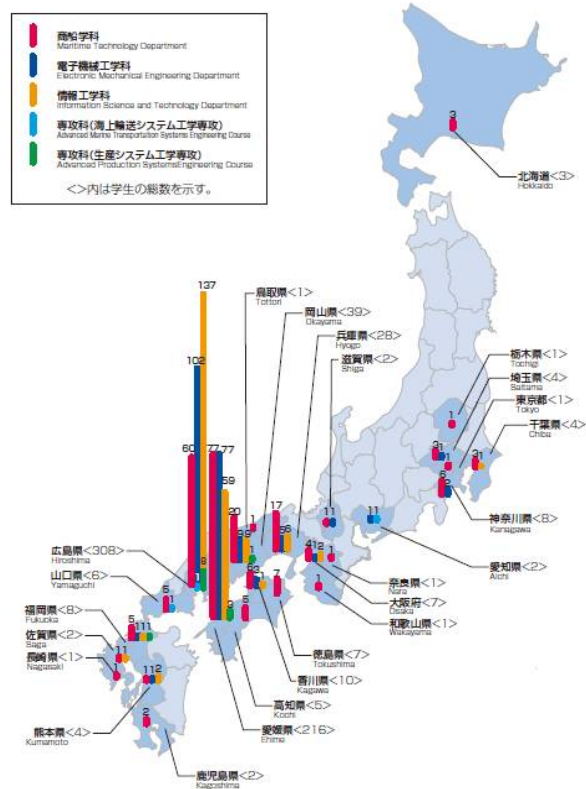


図4 学生の出身校の分布

(弓削商船高等専門学校 平成30年度学校要覧より)

特にプロコン部は全国コンテストで優勝や入賞の常連である。

また、長期休暇中には語学研修や海外インターンシップなどに参加する者もおり、チャレンジングで有意義な学生生活が営めるよう豊富なプログラムが用意されている。

#### 4. 地域や社会との連携

地域との連携・交流のイベントとしては、本校教員による地元の企業様への出前授業や出張講演のほか、地域の小中学生らへの公開講座が従来から盛んである。最近では、地域共同研究推進センターの活動も整備されはじめ、本年度は、「弓削商船高等専門学校 産学連携フォーラム」を開催し、本校教員や専攻科学生の研究テーマの発表をとおして地元企業様とのマッチングを促進し新たな共同研究の立上げに繋げようとしている。

また、日本弁理士会四国支部との連携のもと知財教育にも力をいれており、毎年、学生や教職員を対象として「知財セミナー」を実施し知財リテラシーの向上に努めている。

.....

以上ご紹介させて頂きました本校で本年12月には日本機械学会技術と社会部門の部門講演会を開催する運びとなりました。本部門講演会の翌日12月2日の見学会は新居浜市の広瀬歴史記念館やマイントピア別子を訪問し、環境管理の原点に思いを馳せて頂く企画です。弓削島からは天候に恵まれれば本校の練習船「はまかぜ」(図5)にて新居浜マリーナまで燧灘(ひうちなだ)(図1)のクルージングを体験して頂けるかと思えます。

この機会に是非、弓削商船高専にそして上島町にお越し頂き、技術と社会のあり方について、惹いては世界の未来について、この小さな「美しい町」で語り合ひましょう。



図5 練習船「はまかぜ」

(弓削商船高等専門学校 平成30年度学校要覧より)

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.38

(C)著作権:2018 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門